

2026年度入試 文学研究科

解答又は解答例及び出題意図

課程	博士課程前期
実施期	Ⅱ期
科目名	文化人類学
	解答又は解答例 及び出題意図
〔Ⅰ〕	<p>〔出題意図〕 近年の文化人類学においてさかんにとりあげられる「環境問題」や「気候変動」、「自然災害」などにかかわる研究について、地域社会の生業や価値観、知識体系、社会関係などの観点から調査研究を実施する場合を想定し、その構想にどのように反映させるかについて、研究立案能力を問うた。①研究題目、②研究目的、③研究方法、④予想される成果、の各記述項目を説明することにより、妥当なリサーチデザインを組み立てられる能力を有するかどうかを問うているところがポイントである。</p>
〔Ⅱ〕	<p>〔出題意図〕 いずれも文化人類学の基本的概念や専門用語についての基本的理解ができているかどうかを問うものである。いずれの語句も基本的なものであるため解答（模範解答）は省略するが、各語のポイントは以下の通りである。</p> <p>(1) 年齢階梯制：「年齢組」との違いを理解しているかどうか。</p> <p>(2) 分離・移行・再統合：ファン・ヘネップの通過儀礼の基本構造を理解しているかどうか。</p> <p>(3) ディアスポラ：移動の人類史のなかで文脈化して理解しているかどうか。</p> <p>(4) レトロツーリズム：観光人類学の研究潮流に則って理解しているかどうか。</p> <p>(5) 半構造化インタビュー：フォーマルインタビューの中の三様態（構造化・半構造化・非構造化）の区別を理解しているかどうか。</p>
〔Ⅲ〕	<p>〔出題意図〕 文化人類学史上、大きな貢献をはたした文化人類学者の業績を説明することを通して、文化人類学の学説的積み上げを説明できるかを問うものである。なお、いずれの文化人類学者も著名であるため解答（模範解答）は省略するが、たとえば下記のような位置づけを明確に認識しているかどうかポイントとなる。</p> <p>(1) ジェームズ・フレーザー：進化主義人類学者としては時代錯誤的に考えられがちであるが、彼の呪術論は現代の象徴論や記号論的解釈の基礎につながっている点。</p> <p>(2) フランツ・ボアズ：文化相対主義を旗印とするアメリカ人類学の始祖的として位置づけられ、現代のアメリカ文化論の礎となった点。</p> <p>(3) エドモンド・リーチ：イギリス社会人類学の伝統の中にフランス構造主義をもちこみ融合させるとともに、コミュニケーション論としての文化を定位した点。</p> <p>(4) 山口昌男：日本の文化人類学研究を広く展開させ、歴史学や社会学、哲学や文学研究などにいたる広範な学際的研究の要となった点。</p>